

Close Up

クローズアップ 四輪販売会社

店頭での交通安全活動を強化することで地域の安全に貢献する

Honda Cars 熊本（本社：熊本県熊本市）では、お客様やその家族を対象にした交通安全活動を強化している。同社取締役管理統括部部长 石垣弘さんは、その背景を次のように話す。「昨年、社内に社会貢献推進室という部署を立ち上げました。これまで以上に地域に密着した取り組みを進めていくためです。その一環として、地域の子もたちを交通事故から守るため、私たちの強みを活かせる交通安全活動にもっと力を入れるべきだと考えました。Hondaには『あやとりいひよこ※1』や『できるニャンと交通安全を学ぶ※2』といった子ども向けの教育プログラムがありますから、これらを活用した交通安全教室を全15拠点で実施することにしました。各拠点の女性スタッフ1名を指導者として養成し、今年7月から9月にかけて全拠点で交通安全教室を開催した。

9月23日、Honda Cars 熊本 宇土店が2回目となる交通安全教室を実施。この日は30人以上の子もが参加し、指導は同店の女性スタッフ3名が担当した。

最初は「できるニャンと交通安全を学ぶ」。「できるニャンたいそう」では前方のスクリーンに映し出される映像に合わせて、子どもたちが身体を動かし、道路を渡る時の基本動作を確認する。「できるニャンとどうのわたりかた」では、登場人物の女の子が道路に飛び出しそうになる場面映像を止めて、女性スタッフが「どうして飛び出しはいけないのか」「どうやって渡れば良かったのか」問いかけ、子どもたちに答

えてもらう。そして、「道路を渡る前は止まる。右をみて、左をみて、もう一度右をみて、クルマやバイクなどが来ていないことを確かめてから渡る」という正しい道路の渡り方を全員で確認した。

次に「あやとりいひよこ」。交通場面が描かれた大型のワークシートを使って、道路を歩く場所や歩行者用信号機の色の意味について、女性スタッフが子どもたちに問いかけながら説明。最後に、「道路を渡る前に止まることを忘れないでください」と強調した。6歳と8歳の子もと来店した保護者は「映像やイラストを使って説明してもらえたので、わかりやすい内容でした。子どもたちも道路に飛び出すことの危険性を理解できたと思います」と話す。

指導を担当した福田千紘さんは「7月の交通安全教室の時は初めてだったこともあり、お子さまから上手く意見を引き出すことができませんでした。今日は、私のほうから積極的に問いかけるなど工夫し、多くのお子さまに答えてもらうことを意識しました。最初は恥ずかしがって後ろにいたお子さまも交通安全教室が進むにつれて前のほうに



この日は多くの親子連れがHonda Cars 熊本 宇土店に来店した



「できるニャンとどうのわたりかた」というアニメーションを見せながら、子どもたちに道路に潜む危険について考えてもらう



身体を動かしながら楽しく安全行動を学ぶ「できるニャンたいそう」

出て答えてくれるなど、イメージ通りに進行できました」と手ごたえを感じていた。

Honda Cars 熊本では今後、保育園などに出向いて交通安全教室を実施することも検討している。また、同社は子ども向けの啓発活動以外に、高齢のお客様を対象にした安全運転講習も全拠点で実施している。



「あやとりいひよこ」では道路のどこを歩けばいいか、ワークシートにイラストを貼ってもら



交通安全教室の中では繰り返し「止まる」「観る」「待つ」を強調

※1 4～5歳児に「音（交通環境音）の理解」「必ず止まること」「必ず観ること」「信号機の理解」という交通安全の基本を繰り返し学ぶことができる交通安全教育プログラム。「あやとりいひよこ」は「あやとりいひよこ」を「やさしくときあかしりかいていただく」の略。詳細は以下のホームページを参照。https://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/ayatorii/ ※2 「できるニャン」というオリジナルキャラクターを使って、アニメーションや体操で幼児が楽しく学べるように工夫された交通安全教育プログラム。詳しくは以下のホームページを参照。https://www.honda.co.jp/safetyinfo/nyan_safety/



指導を担当したHonda Cars 熊本 宇土店の福田千紘さん（左）、岡崎ひなたさん（中）、角田直美さん（右）

Safety Info.

インフォメーション

「第7回 BIKE LOVE FORUM in やまなし」開催

9月20日、「第7回 BIKE LOVE FORUM in やまなし（以下、BLF）」がベルクラシック甲府（山梨県甲府市）で開催された。BLFは、世界に通用するすばらしいバイク文化の創造をめざすとともにバイク産業の振興、市場の発展等を図ることを目的にバイクに関わる業界・団体※3、地方自治体※4などが核となり、利用者等も交え、関係者間で社会におけるバイクへの認知と受容、共存のあり方やバイクの将来像等に関して議論する会議で、2013年から毎年実施されている。

今回の開催地となった山梨県には富士山や富士五湖をはじめツーリングスポットが豊富にあり、県外から多くのライダーが訪れることから、「やまなしを楽しくセーフティライディング」というテーマでパネルディスカッションが行われた。はじめに、山梨県リニア交通局交通政策課長補佐 前野克典さんが同県の二輪車事故の現状について、「重傷以上の重大事故は中型以上のバイクに乗っている40～50代に集中し、中型以上のバイクの事故は週末のツーリングで県外

から訪れたライダーによるものが多くなっています」と報告。伊豆スカスカ事故ゼロ小隊長 KAZU 中西さんは静岡県東部のツーリングスポットとなっている伊豆スカスカラインにおける二輪車事故防止の取り組み事例を紹介。「伊豆スカスカラインも以前は県外から訪れるライダーの重大事故が多発していました。そこで、ライダーの安全意識に訴えかける啓発活動しようとしてサポート団体として伊豆スカスカ事故ゼロ小隊を立ち上げました。そして、『他のクルマがいる中で、自分がどういう運転をするれば危険に陥らないか』『自分の運転は他者から、どのように見られているか』常に意識してほしいと訴え続けたのです。活動を4年間続けた結果、重大事故は激減しました」と述べた。山梨県二輪車安全運転推進委員会特別指導員 鶴田治彦さんは同県内で実施されている高校生や一般ライダーに対する安全運転普及活動の内容や関係団体との連携について、（一社）日本二輪車普及安全協会安全本部安全普及部部长 作田裕樹さんは今年度からバイクの「三ない運動（免許を取らない・バイ



「やまなしを楽しくセーフティライディング」をテーマに行われたパネルディスカッション

クを買わない・バイクに乗らない）」を廃止した埼玉県での二輪に乗車する高校生を対象とした安全運転講習について、それぞれ発表。山梨県観光部観光プロモーション課課長補佐 中村洋一さんはBLF開催を記念し企画した「セーフティライディング やまなし ツーリングキャンペーン」（9月20日～11月30日）の内容を説明し、「山梨県内をバイクで安全にツーリングしながら、山梨の魅力・バイクの魅力を体感してください」と会場の参加者に呼びかけた。最後に、パネルディスカッションのファシリテーター（進行役）である日本大学理工学部交通システム工学科助教 稲垣具志さんが「ラ

イダーは自分の安全運転技術を向上させるだけでなく、ツーリングに行った際は他のクルマ、自転車、歩行者のことを考えながら運転することが大切です」と締めくくった。このほか、今回のBLFでは「女性ライダーの活躍に期待」というテーマで、女性の二輪ジャーナリストやビギナーライダー等が女性のバイク利用を促進するための方策を話し合った。

※3 経済産業省、（一社）日本自動車工業会、全国オートバイ協同組合連合会、（一社）日本二輪車普及安全協会、日本自動車輸入組合、（一社）日本自動車部品工業会、（一社）日本二輪車オークション協会、（一社）全国二輪車用品連合会、（一社）中古二輪自動車流通協会 ※4 三重県、鈴鹿市、静岡県、浜松市、磐田市、熊本県、【協力】山梨県、甲府市